

少子高齢社会といわれて久しい日本。その社会構造も、大きく変わってきている。高度な科学技術の進展が、私たちの生活様式を一変させたが、それは医療においても同様である。多様なヘルスケアニーズが生まれる現代にあって、医療従事者たちの意識も社会に対応することが求められている。看護師もその例外ではない。個人、家族、地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスの提供を目指すということは、時代の要請である。こうした要請に応えることは、今後の看護師の看護活動が一層自律的になることを意味している。

チーム医療という概念が浸透しているなかで、看護師もまた医療チームの一員として、他職者との有機的なコラボレーションが組めることを期待されている。さらに地域医療連携の推進など、医療現場にあって看護師にかかる役割は、ますます大きいものとなる。その意味では、看護師はもはや医療チームの中核として位置付けられなければならない。だからこそ、医療の国際的動向と医療・看護提供システム、医療・看護ケアの質に関する概念（リスクマネジメントを含む）、研究および実践を一年次から学ぶことには意義がある。

安全な看護ケアを行うための看護管理能力は、同時に病院経営の鍵となる。病院職員のなかでも多数を占め、最も患者に近い存在である看護部のマネジメントを成功させることは、サービス産業としての医療の位置付けを根底から支えるものとなる。それは、医療費抑制政策が進められるなかで、医療の質が十分確保されるかどうかにかんして厳しい目が向けられてくるからである。

日々の看護業務に対し、管理者として経済学的視点をもって適正な効率性に目を配ること、看護の質の科学的評価、看護の質を維持するための情報発信者の役割、看護管理において必要なリーダーシップ、看護業務の効率と効果、意思決定などの臨床実践能力を構築するための理論や技術、そこから生み出される医療・看護ケアシステムの確立と発展など——これらのことを、これからの看護師は知らなければならない。

療養環境とは何か。いま、そこに何が求められているのか。社会が看護師に問うているもの、また看護師が問うていかなければならないこと、このテキストはそうした問いに答える能力を養うために編まれたものである。変化し発展し続ける社会に対応していくために、看護管理領域で学ぶべきことは幅広い。

看護管理は必須とされながらも、初学者にとってはなかなか学びにくい。そこ

で、このテキストではその輪郭を示し、そこから具体的に次の学習へとつなげていけることを意図してつくられた。

みなさんが、将来にわたって発展的な看護活動を続けていくために、まずこの1ページをめくってみてほしい。

編者を代表して 加藤和子